

学校教育目標	かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子
目指す学校像	凡事徹底の上に、心身ともに健康で“情熱とスキル”をもった教職員が創造的に教育活動を進め、子どもたちに確かな生きる力(自己調整力等)を育む学校

重点目標	1 子どもたちが生涯にわたって学ぶ基盤となる主体的な学習態度と基礎学力の育成 2 どの子どもも安全・安心のうちに学校生活を送り、自分のよさを伸ばし活躍できる組織的な対応の強化 3 教職員それぞれが児童、保護者、地域住民からの信頼を築き、喜びをもって力を発揮する教育活動 4 どの子どもも安全・安心のうちに学校生活を送ることのできる教育環境の整備 5 開校155周年を迎える伝統と歴史の重みを生かし、地域に根差し、貢献できる学校づくり
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価			
年 度 目 標				年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
学びの質の向上に 関する取組 1	<現状> ○規律ある学校生活の中で、学習に意欲的に取り組む児童が多く、基礎・基本が概ね定着している。 ○学習内容を理解し、自身が学習の進め方や時間配分などを調整する力に課題が見られる。 <課題> ○児童が学習の進め方について、自分で気づき、自分で選び、自分で整えていく力を身に付ける必要がある。 ○児童が自らの学び方を振り返りながら「自立した学習者」となれるよう、教員が引き続き支援していく必要がある	○自己調整力等の向上を図る授業改善 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	○授業観察シートを活用した相互授業観察による授業改善を行う。 ○カリマネデザインマップを踏まえた国語・算数・学活等を確実に実施する。 ○課題解決の過程における自分や友達の学びの深まりや疑問に思ったこと、自分の学び方について振り返ることができる時間を設定する。 ○「学方向上ラウンジゼミ訪問」の活用による全国学力・学習状況調査結果等の分析と改善策を構築する。 ○ICTを活用した基礎学力向上を図る朝読書やチャレンジタイム等を実施する。	○学校評価における児童の学校の活動に関する項目のA評価が向上したか。 ○授業観察シートを活用した相互授業観察を全教員が実施したか。 ○自己調整力の自覚の変化を測定するためのアンケートの結果で、1回目よりも2回目の結果の方が向上したか。 ○全教員が児童の学力や学習の状況を知り、今後の指導方法の工夫改善について考えることができたか。 ○児童の授業に関するアンケート「学びの指標」における「主体的な学び」の項目で1回目よりも2回目の結果の方が向上したか。				
	心のサポートに関する取組 2	<現状> ○いじめなどのトラブルを早期に解決し、その後の見守りや見届けを確実にしている。 ○不登校傾向の児童が複数人おり、定期的に家庭と連絡を取るなどして連携を図っている。 <課題> ○不登校傾向の児童と家庭へのより効果的な対応や支援について模索していく必要がある。 ○児童が時と場に応じた行動をとれるよう粘り強く指導・支援をしていく必要がある。 ○相談することに抵抗を感じている児童もいるため、「いのちの支え合い」を学ぶ授業等を通して相談する方法を学ぶ機会を設ける必要がある。	○安全・安心な学校を目指す組織的な対応の強化 ○一人ひとりの児童の心情に寄り添った支援体制の充実	○保護者と担任の面談を年2回実施する。 ○教職員全員で児童理解のために部会や研修会を通じて様々な情報を出し合い、共通理解を図る。 ○参集型の朝会や異学年交流、あいさつ運動等を実施する。 ○「ほんまっちゃんーむ」(Solaーむ)の見守り体制を確立し、不登校傾向の児童が安心して過ごすことができるようにする。 ○「いのちの支え合い」を学ぶ授業等を通して相談する方法を学ぶ機会を設ける。 ○事案発生時は当日中に管理職の指示の下、役割分担し組織的に対応し解決の方向性を関係者に提示するとともにSC等との連携や適切なケース会議の開催を実現する。	○保護者への学校評価アンケートにおける「児童の悩みやトラブル等に誠実に対応している」の項目でA評価が向上したか。 ○保護者への学校評価アンケート下における「児童が落ち着いて学習、生活できる環境が整備されている」の項目でA評価が向上したか。			
		地域とともにある 学校づくりに関する取組 3	<現状> ○学校行事を地域に公開したり、児童、保護者、地域住民で協働したりする活動を実施している。 ○「子どもを見守り隊」や防犯ボランティアの活動により、登下校時の児童の安全が確保されている。 ○学校評価の結果から、保護者や地域住民は学校の取組に対して概ね理解を示し、好意的である。 <課題> ○防犯ボランティア等の高齢化が進む中、学校での取組等の情報を分かりやすく発信し、理解してもらう必要がある。 ○授業参観や作品展等で保護者が来校する機会を確保していく必要がある。	○コミュニティ・スクールの円滑な実施 ○信頼され慕われる学校づくり	○本校児童に身に付けさせたい力の育成を図る。学校運営協議会への児童参画機会を設定する。 ○学校運営協議会の開催後には、学校だよりの記事とするなど、保護者や地域住民に内容等を周知する。 ○配信アプリを活用した確実な情報提供を行う。 ○児童会主催のあいさつ運動を実施する。 ○学校ホームページのブログを週に1回以上アップし、積極的に情報を発信する。 ○年2回の個人面談期間に合わせた作品展や、児童、保護者、地域住民で協働する活動を実施する。	○年1回以上学校運営協議会において児童参画機会を設定できたか。 ○学校運営協議会が開催された翌月の学校だよりに関して、コミュニティ・スクールの内容を掲載したか。 ○保護者への学校評価アンケート下における学校への信頼に関する項目のA評価が向上したか。 ○学校ホームページのアクセス数が前年度よりも向上したか。		
	教育環境の整備に 関する取組 4		<現状> ○大規模改修の後、地域やPTAの協力もあり、学校の整いが保たれている。 ○敷地が広く、昔からの巨木も複数残っており、除草や木の伐採を定期的に行っている。 <課題> ○除草が必要な場所や複数の古木等、整備しなければならない箇所が多い。 ○古木の伐採を計画的に進めるとともに、教職員による点検を徹底したり、児童の安全への意識高揚や環境美化に取り組む主体的な態度の育成を図ったりしていく必要がある。 ○椅子や机の高さが合っていない場合があり、年度当初等に担任等がチェックする機会が必要である。	○安全・安心な学校を目指す教育環境の整美 ○適正な予算執行	○管理職による毎日の教室訪問等と併せた校舎等の巡視・フィードバックを踏まえた安全・安心な環境の整備を行う。 ○体育館エアコン工事を踏まえた行事や取組等を円滑に実施する。 ○除草作業等の敷地内の整備活動を児童と保護者、地域住民とともに協働する機会を年3回設定する。 ○毎月10日を「安全・安心デー」とし、教職員による安全点検や情報セキュリティチェック、家庭への事故防止に関する呼びかけ等を行う。 ○毎学期ごとに全教職員との予算委員会を実施する。 ○各学期に1～2回程度、管理職等と事務職員との打合せ・予算の執行状況の確認を行う。	○保護者への学校評価アンケートにおける環境整備の項目のA評価が向上したか。 ○教育環境の整備のために計画的に予算を執行したか。		
教職員のキャリア形成に 関する取組 5		<現状> ○様々な経験年数の教職員がバランスよく所属しているため、教職員間で助言し合う様子が見られる。 <課題> ○様々な研修に進んで参加し、自分のキャリアを向上させようとする意識に差がみられる。 ○時間外勤務が月45時間を超えている教員が複数名いる。 ○教職員の笑顔が児童の笑顔につながる部分もあるため、教職員の輪を広げる取組をする必要がある。	○教職員の同僚性の向上 ○やりがいを実感できる職場環境の醸成	○メンター・メンティー研修等を実施する ○教職員の同僚性の向上やストレスチェック集団分析における総合健康リスクの低減を図る。 ○教職員の人権意識、人権感覚を養うための校内研修を実施する。 ○管理職による毎日の教室訪問等を踏まえた教職員への声掛けを行う。 ○教職員自身の勤務状況を客観的な数値として知らせる。 ○教職員一人ひとりの時間の使い方を尊重する休憩時間等のまとめ取りを実施する。	○教職員への学校評価アンケートにおける組織運営に関する項目のA評価が向上したか。 ○教職員への学校評価アンケート下における児童に関する項目のA評価が向上したか。			

学校運営協議会による評価

実施日令和 年 月 日

学校運営協議会からの意見・要請・評価等